

「臨床検査技師 AtoZ」を用いた広報活動について（報告）

©滝本 寿史¹⁾、小畑 義規²⁾、園田 真之³⁾、白波瀬 浩幸⁴⁾

公益財団法人綾部市医療公社 綾部市立病院¹⁾、国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院²⁾、公益財団法人 丹後中央病院³⁾、京都大学医学部附属病院⁴⁾

【はじめに】「臨床検査技師 AtoZ」（以下、AtoZ）は A から Z まで 26 個のキーワードで臨床検査技師を解説したミニブックで、京都府臨床検査技師会（以下、京臨技）北部研究班が企画制作した。今回、AtoZ 制作後の経過について報告する。

【目的】AtoZ を読んでもらうことで、臨床検査技師の仕事を市民や学生に広く知ってもらう。また、京臨技会員のコミュニケーションツールとして、名刺がわりに活用してもらう。

【方法】①京臨技会員に周知し、配布する。②病院施設や図書館などで配布する。③地元新聞に取材を依頼する。④臨床検査専門誌に掲載を依頼する。⑤ポスター展示を企画する。⑥イベントや学生向けの職業紹介で配布する。⑦インターネットでアンケートを募集する。

【結果および活動報告】①京臨技ニュースレターに同封し、配布した。②病院施設や保健センター、図書館などで配布した。③あやべ市民新聞と京都新聞の取材を受け、紙面に掲載された。④月刊メディカル・テクノロジー（医歯薬出

版）と MTJ（じほう）で紹介された。⑤福知山市立図書館でポスター展示を行った。⑥検査と健康展などのイベントや病院施設のコメディカル体験などで配布した。

【考察】アンケートでは 21 件の意見が寄せられた。

「AtoZ をご覧になって臨床検査技師の仕事がわかりましたか」の問いに、90.5%が「わかった」と回答があった。「臨床検査技師の仕事に興味をもたれましたか」の問いには、85.7%が「興味をもった」と回答があった。新型コロナウイルス感染症の影響で各種イベントが中止になり、AtoZ を直接に配布する機会がなかった。そんな中でも、新聞掲載やポスター展示で、多くの市民に臨床検査技師を知ってもらうきっかけができた。京都府北部地域では十分に活動できたが、この活動を京都府全域に広げることが今後の課題である。

【結語】AtoZ を用いることでコロナ渦においても地道な広報活動が実施できた。これからも、AtoZ を有効に活用して、臨床検査技師の仕事を伝えていきたい。

（連絡先：0773-43-0123）